

1. 研究の目的と方法

1-1 研究の目的と方法

現在、北海道の町並景観は、急速に変化している。これは、札幌のような近代的な都市ばかりでなく、函館や江差といった都市文化の蓄積の厚い都市でも共通した都市現象である。

町並景観はどのように、またなぜ変わるのか。

都市の景観変貌の実態とその要因を知ることは、景観整備にとって重要であるが、従来のこの種の研究は古い地図や航空写真を使って土地利用や地域機能の変化を調べるのがほとんどで、実際の町の姿の変化を実証的にとらえた研究はほとんどないといってよい。しかしながら、良好な住環境形成の1つの側面としての町並景観の整備・誘導は、視覚的かつ具体的なかたちとして提示する必要がある、それはそれぞれの都市や地区のもつ固有のコンテキストを十分にくみ取ったところから生みだされるべきものである。また、町並景観を地域生活の視覚的表現としてとらえるならば、景観変貌は社会構造や都市構造の変化の反映であると同時に、そこで生活する人々の生活様式や住要求・住意識の変化の直接的な表れであり、景観整備・誘導の考え方はそこに立脚したものである必要性がある。

本研究は、町並景観の変化を、個々の建物の変化を経年的に追跡することによってとらえ、景観変貌の動向と要因を明らかにすることによって、町並景観の整備誘導の可能性を探ることを目的としている。研究の方法として、8～15年前に記録した町並ファサードの図面、写真および居住者の町並に対する意識調査をもとに現状と比較し、

- ① 町並の形態変化および居住者の町並みに対する意識の変化の実態と動向を明らかにする、
- ② 町並形態の変化の要因を、住民生活の変化や住要求、地域構造の変化の検討から総合的に明らかにする、
- ③ 以上の検討にもとづいて、町並景観の誘導の可能性について検討し、整備誘導の具体的方法について考察する。